



洋上アルプス

No.323

2022年2月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



令和3年度 松枯れ対策連絡協議会を開催 (12月2日)



松枯れの現状について意見交換

当保全センターにおいて令和3年度松枯れ対策連絡協議会屋久島支部会を屋久島森林管理署、環境省屋久島自然保護官事務所、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、森林総合研究所九州支所、屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊の関係者22名が参加して開催しました。当保全センター所長の司会進行により、各機関から本年度の屋久島における松枯れの被害状況とその対応策等について報告を受け情報の共有を行いました。

質疑では樹幹注入についての効果的な継続期間や環境省が実施したビニールシート工法について事後の状況また県道脇の松の枯損木の状況などについて質問が出されました。

最後に森林総合研究所九州支所の秋庭グループ長及び金谷主任研究員より「マツノザイセンチュウについて」「絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの衰退について」の講義を受けました。今後とも松枯れ対策連絡協議会の各関係機関と連携協力して、効果的な松枯れ対策を講じていく考えです。

「forest day ～森と人がつながる1日～」へ参加 (1月23日)

公益財団法人 屋久島環境文化財団が主催するこのイベントは、「森と人との関わり」をテーマに共生と循環の文化を様々な団体と共創し、町民に広く普及することを目的としています。

今回は、安房の屋久島環境文化研修センターにおいて開催され、当日は約120名の参加がありました。環境省や屋久杉自然館、木繋プロジェクトといった団体からのプログラムの提供がある中、当保全センターは屋久島森林管理署と共同で竹とんぼ・竹箸作りや丸太切り体験を行いました。

竹とんぼ・竹箸作りコーナーでは、子どもたちが日頃使い慣れない刃物に苦戦しながらも慎重に削り、立派な竹とんぼを作り上げると、自作の竹とんぼがより上手く飛ぶように調整したり、カラーペンで綺麗にデコレーションするなど、各々楽しそうに仕上げをしていました。丸太切り体験は、ただ切るだけではなく、スギ・ヒメシヤラ・アブラギリの3種類の木を準備し、材の特徴や固さの違いなども説明しました。初めて鋸を手にする子どもも多く、必死に鋸を引き、苦労して切った木の円盤を大事そうに持ち帰っていました。

他の団体も火起こし体験や弓矢体験、アスレチック広場などたくさんの催し物を実施しており、子どもたちにとって楽しい1日となりました。



竹とんぼ作りを指導する職員

令和4年度～令和5年度年度「国有林モニター」の募集について

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、また御意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、令和4年度～令和5年度「国有林モニター」を下記のとおり募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

【募集人数】 30名程度 【依頼期間】 令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)

【依頼内容】

- ・森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答(匿名にて公表することがあります)
- ・森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
- ・国有林モニター会議への出席(任期中1～2回、希望者のうち一定数)

※ 弊局の広報誌など、国有林に関する資料を定期的にお送りします。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上(令和4年4月1日現在)の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。

※ ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長、常勤の国家公務員、国有林野事業職員OB、森林・林業担当の自治体職員並びに令和2年度～令和3年度に国有林モニターであった方は応募することはできません。

【応募方法】

九州森林管理局ホームページの応募フォームからご応募下さい。

→URL: <https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/kyusyu/form/210111.html>

なお応募フォームをご利用になれない場合は、下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で以下の宛先までご応募いただくこともできます。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号
九州森林管理局 企画調整課国有林モニター担当
TEL: 096-328-3642 FAX: 096-328-3643 E-mail: ky_kikaku@maff.go.jp

【必要事項】

- ・氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、メールアドレス
- ・電話番号(固定電話または携帯電話)
- ・国有林モニターを知ったきっかけ(具体的に記入)
- ・国有林モニターに応募された理由(50～200字程度)

※ ご応募いただいた個人情報、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

【募集期限】 令和4年2月25日(金)(当日消印有効)

【発 表】

- ・選考結果は、令和4年3月末日までに依頼状の発送をもってお知らせいたします。
- ・依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。

※ 選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

※ なお、国有林モニターの募集及び過去の活動については、九州森林管理局のホームページで公表しております。(URL: <http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/monitor/kokuyurin-monitor.html>)



お問い合わせ先
九州森林管理局 総務企画部 企画調整課
国有林モニター担当: 坂田
ダイヤルイン: 096-328-3642 FAX: 096-328-3643

屋久島里めぐり（第2回）

吉田集落・中間集落

公益財団法人屋久島環境文化財団 佐々 航平

吉田集落について

屋久島の北北西岸に位置する吉田集落は、世帯数が80世帯ほどの小さな集落です。

ポンカン、タンカン、キンカン、グアバのほか、ガジュツ（ガゼツ、紫ウコン）やタロイモ、ヤマイモなどの根菜作物が海へと続く急峻な斜面に栽培されています。

最高峰を見上げるように屋久島の外周に並ぶ山々の一角を成すのが、吉田岳です。標高1,165mで、海を臨み、すばらしい景色が楽しめます。1185年、国内の覇権争いの合戦に敗れたあと、平家がこの吉田の土地を拠点として活用したと言われたのも、この地形に理由があります。それ以来、神道神話の主神である天照大御神が宿る場所として崇められています。

風光明媚な吉田集落は、巨大な花崗岩があることでも有名で、約1550万年前に屋久島を形成した甚大な地質パワーの痕跡を写真に収められる絶景スポットです。良く晴れた日の夕方に

訪れると、夕陽の絶景も見られるので、楽しみがさらに膨らみます。

「まんてん・平家の里協議会」では、前述したもの以外にも集落内にある「日高神社」や「森山神社」、海岸部にある「祀りの大岩」等をゆっくりと解説しながら巡ることが出来ます。



吉田集落の里めぐりの様子

中間集落について

屋久島の南西岸に位置する中間集落は、世帯数が120世帯ほどの小さな集落です。

気温は島内の平均よりも高く、雨量が比較的少ないおかげで、以前はサトウキビの栽培の中心地として発展しました。サトウキビとヨモギの味が特徴のもちもちしたお米のお菓子、屋久島の特産「かからん団子」が有名です。

多くの観光客が、推定樹齢約300年の巨木のガジュマルを見に足を運び、また砂浜が広がるビーチで泳いだり、路地を歩いたりして過ごします。路地に数多くみられる石垣は天然の石を積み上げたもので、その歴史は1800年代後半まで遡ります。

「中間ガジュマル会」の案内により、「中間神

社」や「中間浜」等の解説を聞きながら回ったり、集落内にある巨木のガジュマルの前で楽しく写真を撮ることが出来ます。



中間集落の里めぐりの様子



高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討②（令和元年度）

湿原における流入流出量および気象モニタリング調査

◆目的・調査地点及び方法

現地調査により把握した湿原内の微地形・流路状況等の環境条件から各モニタリングの実施地点を選定し、湿原の水収支を把握するため、地表水・地下水や気象等の観測によるモニタリング調査を実施した。

花之江河と小花之江河の地表水位・地下水位・大気圧を通年観測するための固定観測機器を設置し、表流水、地下水位の観測を行った。地表水位は流路の水位を計測、地下水位は地下30cmの水位を計測している。計測間隔は1時間に設定した。また、花之江河に設置している大気圧計は、水位・地下水位の計測地補正に使用する。

◆現地での調査・検討及び観測データ分析結果

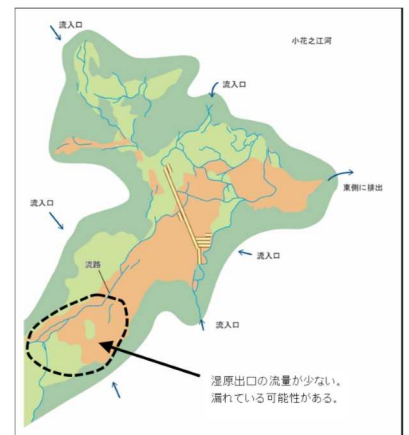
花之江河の地表水(流出)における水位と降水量の推移から、降雨があると集水面積が小さいので即座に水位が増える関係になっていることがわかる。また、湿原に入った水が一時滞留し、時間をかけて下流に流れ出るので、雨が止んでもすぐに水位が下がらないことがわかった。今後もこのようなデータを蓄積し、長期流出をみていくことで湿原の水文的な特徴を解析する必要がある。

花之江河は、石塚方面からの集水面積よりも、黒味岳方面からの集水面積が圧倒的に大きい。地表水は大雨時を除いて、黒味岳方面から湿原北東側に入るが、湿原内には入らずに北西方面から出ていく。集水面積の小さい石塚方面から入ってきた水が湿原を潤していると考えられる。

花之江河は、大きな流域からの雨水の流入がないため、水の供給量が少なく、湿原としてかなり厳しい状態にあると思われる。小花之江河への流入口はいくつかあるが、いずれも集水面積が小さい。



花之江河の流路図



小花之江河の流路図

木に逢う日々（第1回）「ガイドを始めて」

当保全センター GSS 野々山 富雄

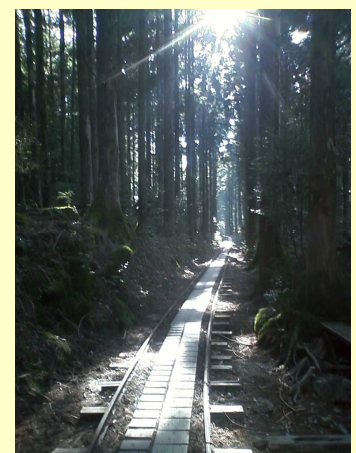
昨年の11月より、当保全センターでグリーンサポートスタッフになりました、野々山です。私は屋久島でネイチャーガイドの仕事も25年しております。

もともとは横浜出身で、大学では探検部に所属し、アウトドアの活動を広げていましたが、大自然の中で生きることを願い、1995年から屋久島での暮らしを始めました。

その頃は世界遺産になってまだ2年。島の自然を案内するガイドの数は少なく、他の仕事をしながら、たまに頼まれて縄文杉などに行くばかりでした。

それが遺産登録のおかげで、どんどんお客様が増え、ガイドの需要も高まったのです。今ではカヌーやダイビングなど水関係も含め、200人近いガイドがいるのではないかとされています。

もともと山登りをしていた私は、野外活動に慣れているだろうとの誘いもあり、ガイドになったわけです。当初は連休と夏休みぐらいでしたが、今では冬場を除き、年間を通じてガイドの依頼が来ます。まさかガイドだけで生活ができるようになるとは、正直、夢にも思いませんでした。それもこれも、やはり屋久島の素晴らしい自然のおかげだと、強く感じております。毎日のように、山に登り、木々に逢える仕事、そんなガイドの体験談など、お話しして参ります。



トロツコ道